令和5年度 第1回北陸農政局農業農村整備等評価に係る技術検討会（補助事業）議事録
【再評価・事後評価】

日時：令和5年11月30日（木）13：34～15：54

場所：北陸農政局 第1・2会議室（7階）

委員：根岸委員、浜野委員、松本委員、森委員長

[技術検討会委員からの質問・意見]

3. 農業農村整備事業等補助事業の再評価について

・農業競争力強化農地整備事業（農地整備事業）「中曽根地区」

（松本委員） 3点質問していいですか。私の聞き取り不足かもしれないのですが、本事業の目的が排水不良の改善を行うということで、その結果、地耐力が増したというのが補助事業の7ページ目に書いてあるということなのですが、地耐力が増したというエビデンスを、例えば、SWSだったか忘れたのですが、土質力学的なパラメーターで地耐力がビフォーアフターでこう変わったよというのがあったほうがいいのではないかな。もしあれば教えてほしいというのが1点。要はそれを見れば満足いく地耐力の向上につながったのかどうかという判断ができるわけですね、科学的にね。

2点目は、環境配慮水路というのが、四季を通じて生物の生息が見られるというところをここを選んだということだったのですが、ほかにも選択肢がなくてここしかなかったという状況だったのかどうか。それとも、ほかにも候補があったのだけれどということで何かそういうことだったのかというのが2点目の質問になりますね。

3点目の質問は、さっき最初の質問と一緒にしたので、結局この2点ですね。地耐力の科学的なエビデンス、そのエビデンスの理解、満足な結果になっているのか。2点目は環境配慮水路ということで、選択肢はここしかなかったからここになったということなのかどうか。この2点教えていただけますか。

（高阪農地整備課長） ありがとうございます。

まず、1点目の地耐力の向上ですが、その数値的なエビデンス、何か明確なものを取っているかというところですが、数値としてここまで向上したというのは恐らく取っていな

と思います。何をもち地耐力が向上したと言っているかといいますと、より大型の機械が営農時に入れるようになった、コンバイン等も大型のものが実際に入って、はまることなく走行できるようになったという定性的なものではありますが、そうした実情から地耐力が向上していると表現しているところです。

また、環境配慮水路の場所ですが、常時水が流れているところというところで設定はしていますが、そうした排水路はほかにもあります。その中でなぜここにされたのかというところですが、まず、一つは隣接する地権者の方の了解が得られたこと、その後の維持管理される方の了解が得られたところで実施しているという側面はあると思います。恐らくほかにも候補がある中でそうしたことも勘案しながら、実際に管理ができる場所というものを選んでおられると思っております。

(松本委員) 要は、追跡調査がしやすいからというメリットがあったということですね。多分、その地耐力に関しては、エビデンスがあったほうが今後の事業に対する波及効果が大きくなるので、こういう土質だからこういう、SWSだったか何だかという土質力学的なパラメーターがここではこうだったという一つの参考になると思うので、何かあったほうがいいのではないかと思います。

私からは以上です。ありがとうございました。

(森委員長) ありがとうございました。

事務局の方、よろしいですかね、今の件。

ほか、委員の皆様、いかがでしょうか。何か御質問、御意見等。

(根岸委員) 新潟大学の根岸です。よろしくお願ひします。

私は、すごく基本的なところなのですが、まず細かいところすみません。資料の2-2-(1)-18ページ、下のほうに「各作物のha当たり営農経費は以下のとおり」という説明書きが書いてあるのですが、印刷の関係上か行が潰れているところがあるので、これ資料を後ほど整理されるときに、潰れて隠れてる部分を見えるようにしていただくとありがたいということが1点です。すみません、細かいところで。

もう一つは、20ページなのですが、これは教えていただきたいところなのですが、農業労働環境改善効果というものがございまして、いろんな理由でこうした便益を見込ん

でいるということなのですが、単純に計算の仕方なのですが、労働改善に関するウィリ
ングネス・トゥ・ペイ（WTP）で、これ4,618円と書いてあります。これというのは年
当たり10aというふうに単位が書いてあります。このaというのは、これは面積の単位と
いうことなのかなと思うのですけれども、もし10aだとすると、年効果額の計算のときに、
隣の受益面積のほうはhaになっていて、これhaに単位を合わせて計算すると右側の年効果
額の数字とちょっとずれるのかなと思ひまして、私の計算の仕方がそれで合ってるのかど
うか、haとaの単位のそろえ方とか見方、ここを教えてくださいと思っています。
以上です。

（高阪農地整備課長） ありがとうございます。

まず、1点目に御指摘いただきましたところ、印刷がずれて文字が表記されてなかった
ところ、申し訳ございません。こちら修正したもので第2回では提示させていただきます。

それともう1点、農業労働環境改善効果のところ単位を取り方について御指摘ありま
した。ここはおっしゃるとおり、10aの面積の単位でありますけれども、haに換算するど
きに桁がずれるのではないかという御指摘でございました。こちらの計算のバックのほう
も確認させていただいてまたお示ししたいと思います。確認させていただきます。

（根岸委員） はい。お願いします。

私は以上です。

（森委員長） ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

今の質問に関連して、私からいいですか。この農業労働環境改善効果って、昔からあり
ましたっけ。私はこれあったかと思って、ふと。

（對馬農政調整官） すごく昔という話ではないのですけれども、具体的な導入時期とい
うのはあれなのですが、少なくとも総費用総便益比方式を平成19年に採用してますけれど
も、それ以降はきちんと当該効果を見るという形になっています。

（森委員長） なるほど。これは再評価のときによく出てくるのですかね。事後評価等で

はあまり出ていなかったような気がしますが。

(對馬農政調整官) いえ。再評価であろうが事後評価であろうが、こういった労働強度を軽減するという効果が見られる地区において算定するというふうに御理解いただければ結構です。

(森委員長) なるほど。地区によっては見られない場合もあり得るということですかね。

(對馬農政調整官) おっしゃるとおりです。はい。

(森委員長) そういう違いなのですね。あまり見かけない、今まであったかなと思ったものですから。ありがとうございます。

(對馬農政調整官) そうですね。例えば、畑かん地区、園地・園内作業で大変薬剤散布がきついと、上り下りが大変体力的にきついと、そういったところが改善されるようなかんがい排水事業では見られたりする地区もあります。

(森委員長) なるほど、なるほど。単に、大型機械入って作業時間が短くなって軽減されたというよりは、なかなかカウントしづらい労働形態を表すということですか。

(對馬農政調整官) おっしゃるとおりです。先ほど言われた労働時間の軽減等については営農経費節減効果で見ますし、労働協働いわゆる心情的に厳しいとか体力的に厳しいとか、そういったものについては農業労働環境改善効果という形にしております。

(森委員長) はい、分かりました。ありがとうございます。

ほか、委員の皆様、いかがでしょうか。

先日もお尋ねしたのですが、費用対効果分析の結果なのですが、2-2-(1)-3ページ、現計画時が1.33で今回1.08と結構下がってるのですが、この理由等分かりましたら教えていただけますでしょうか。

(高阪農地整備課長) 資料2-2-(1)-3で、費用対効果として現計画時が1.33、今回1.08という値を示しています。この差がどこで生じたかというところなのですが、計上している効果について変更がございます。当初、この事業計画の時点におきましては災害防止効果を計上しておりました。

といいますのも、今日の再評価地区でもあるのですが、新発田東部地区という湛水防除の事業をやっておりまして、その受益の中にこの地区が入っています。湛水防除の受益の中にこの面整備をやった地区が一部入っているところですので、その湛水防除の地区で見えていた災害防止効果については今回の中曽根地区の受益面積分が見れるのではないかとということで、この中曽根地区についても災害防止効果を計上しておりました。ですが、そのような形での計上は、農水省が定めておりますマニュアルにおいてそのような形で効果を見てよいということは書かれていないといった御指摘がありまして、災害防止効果はこの中曽根地区に関しては計上するべきではないといったことを判断して、今回の再評価の算定においては災害防止効果を落としているということで効果が下がった値となっています。

・農業競争力強化農地整備事業「松浦地区」

(浜野委員) 計画工期を変更されたということなのですが、この資料だけだと理解できないので、何年遅れたというか、何年遅れになっているか、ちょっと教えてほしいと思います。

(高阪農地整備課長) 松浦地区の工期でございますけれども、最初の事業計画では平成25年から令和3年までの工期とされておりました。それが令和9年までに延びているというところです。

(浜野委員) そしたら6年間ほど工事はできなかったという理解でいいのですか。

(高阪農地整備課長) 工事は継続されていたと思います。当初は現況の水路を既設利用しようとしていたのですが、設計を見直して、この事業で改良することとなり工事に追加したこと、他にも埋蔵文化財が出てきて、そのために調査したりとか、結局盛土を

してそこを保護しようとしたとか、そうした検討にも時間を要したこともあり、工期が延びています。

(浜野委員) はい、分かりました。

(森委員長) よろしいでしょうか。

それでは、松本委員、よろしくお願いします。

(松本委員) 資料2-2-(2)-3で、オのところで「ワンドを設置し、」という表現があるのですけれども、参考資料の写真16ページを見ると、何かこれ普通の水路っぽいという写真に私には見えて、ワンドってもうちょっと池っぽい感じのようなイメージを持っていたのですが、16ページのこの写真が資料2-2-(2)-3で書かれているワンドに該当するということですか。

(高阪農地整備課長) この資料16ページの施工イメージでは、ワンドではないのではないかと御指摘いただきました。これから施工予定ということですので、県にもどのような計画になっているのか再度確認して、このワンドという表現が適切なのか、ここも併せて調整して正しいものに直したいと思います。御指摘ありがとうございます。

(松本委員) 多分、ドジョウさんとかシマドジョウさんとか、小石のほかに砂とか何か隠れる土管的なやつみたいなのがないと生息はできないので、この環境配慮の、こういうのに詳しい人っているじゃないですか、お魚の水槽作るのが得意な人とか。多分、そういう人にちょっと聞いてやったほうがいいのと。

ワンドを設置する目的が「水田との移動経路を確保し、」と言ってるので、これ2か所環境配慮水路を設定してるというのが参考資料の13ページで書いてあるので、少なくともこの2か所について生物の移動があったのかどうかというのを、まあ犬猫だったらICチップを入れればいいのでしょうか、水生生物だと移動経路が確保できたかどうかのエビデンスをどうやって取っていくのかというところも検討したほうがいいような気はしますね。「2か所に環境配慮水路を造りました。だから経路が確保できてます。」とそのままストレートに言っているのかな。そこに論理の、ロジックの飛躍がないかなというのは心

配しています。

私からは以上です。

(高阪農地整備課長) 御指摘ありがとうございます。

御指摘のとおり、この移動というのが、どこからどこへ何が移動するのか、そうした点も含めて、どのような対策を考えているのか、県に再度確認して適切な表現に修正させていただきます。ありがとうございます。

(松本委員) はい、ありがとうございました。

(森委員長) ほか、いかがでしょうか。

(根岸委員) 私のほうは、ちょっと教えていただきたい質問があります。

資料の2-2-(2)-23ページのところなのですが、非農用地等創設効果というのがございます。これは事業を実施した場合に用地調達に要した経費に差があるということなのですが、この用地というのは、これは何か公共的な目的で使われる用地の取得に寄与したということなののでしょうか。ここの非農用地というのがどういうものに使われるものなのか、なぜ便益に見込まなければいけないのかということが分からなかったもので、教えていただくと助かります。

(高阪農地整備課長) ありがとうございます。

非農用地等創設効果でありますけれども、松浦地区に関しましては面的な整備をしているわけですが、整備によって、皆さんの田んぼの大きさや位置、場所も変わります。その中で、農地をどこに持っていかと調整していく中で生み出されてくる用地、田んぼ以外の用途に使ったほうがいいよねという形で生み出される用地がございます。具体的にはため池を設置する用地に用いるであるとか、用水路を設置する用地に用いるであるとか、そういった形で用いたもの、そうしたものがこの事業をやることで生み出された用地です。事業がなければそこは用地を取得してそうした公共的なものを設置しないといけないということですので、それを効果として見込んでいるというものです。

(根岸委員) 分かりました。これは用地の整備をするときに、いわゆるみんなのためのとか公共的な目的で使われるもので個人の所有地ではないということなのですね。本来は行政が自分で購入しないといけなかったものが造り出されたというのでしょうかね。

(高阪農地整備課長) この事業をやることによって区画整理特有の換地という処分をやっていく中で、皆さんの土地の場所とかがいろいろパズルのように、調整していく中で生み出された用地をみんなのために使えるものに活用しましょうと。その活用ができたということは、それが金銭的な効果にもなっているということです。

(根岸委員) なるほど。これは特にその部分に対して、行政、政府がお金を支払って用地の取得をしたわけではなくて、使えるようになったと、ただで使えるようになったというふうな理解でよろしいでしょうかね。

(高阪農地整備課長) はい。そのとおりです。ため池等の用地を新たに買う必要がなくなったと、生み出されたということです。

(根岸委員) 分かりました。ありがとうございました。

・農村地域防災減災事業「新発田東部2期地区」

(根岸委員) この地区の用水路については、その実地の調査をさせていただいて、そこでのお話がありましたので、その点について関連してお話を伺いたいのですけれども。地区の方からのお話で、この水路ののり面に結構雑草とか草が生えてしまったりして、それが結果として害虫が発生したり、あるいは作物の病気に影響するおそれがあるということで、その管理や整備というのが結構大変なのだというお話をされたことがございました。

こうした経費について、今回の事業の算定や年効果額というものの中に何か反映されているのか、それともそれは全く違う要素なのか、その部分についてお考えを伺いたいと思います。お願いします。

(竹山防災課長) 資料2-2-(3)-6に維持管理費節減効果というものを見込んでお

ります。ここでは、表のほうでいきますと①が現況施設の維持管理費で、②が評価時点の維持管理費ということで、②のほうが金額が大きくなっております。ということで、事業を実施する前よりも新しい施設ができて管理する箇所が増えたということで、マイナスの効果として見込んでおります。

委員がおっしゃられたとおり、のり面なんかには草が生えてなかなか管理が大変だということも聞いておりますので、そこら辺を、このまま土のままのり面でよいのか、もうちょっと草が生えにくいような構造物にするかというのをまた今後検討していきたいと思っております。

(根岸委員) はい、分かりました。どうもありがとうございました。

(森委員長) よろしいでしょうか。

松本委員、どうぞ。

(松本委員) これは質問では特にないのですが、言ったとおり、こちらの事業がとにかく防災・減災するぞと、湛水を何とかするぞ、水があふれるのを何とかするぞというところが目玉であって、その目玉のところを支えた技術が合流工の設置というところで、参考資料の8ページを見ると十分に効果を発揮しているというふうに資料からは見れると。これは水理工学的な観点から言うと非常に価値がある事例だと思うので、こういったことをぜひ次世代に伝えて、水理工学並びに農業工学系のエンジニアの育成につながるような啓蒙活動をしていったらいいのではないかなと。これが本当に生活に役立つ技術をこういうエンジニアが担ってるんだぞというところをちゃんとアピールできたらいいのではないかなと思うのですが、何かそういう取組があるといいなと思ったのですが、何かやっていたりとかしますか。何かうまく聞けないのですが。

(竹山防災課長) そうですね。実際やってるかどうかはあれですけど、こういった技術につきまして技術論文を発表するなり、あと新潟県さんの中で、県の職員向けに技術、自分たちのやったことを発表する場があると聞いてますので、そういった場面でいろいろな方にこういった技術をお伝えする機会があるかと思っておりますので、せっかくいい意見をいただきましたので、ぜひまたこういったことをPRすることに努めていきたいと思いま

す。

(松本委員) 頑張ってください。期待しています。ありがとうございます。

以上です。

(森委員長) ありがとうございました。

(浜野委員) 先ほどまでの地区は費用対効果が計画時より若干下がっていたのですが、今回は1.12から1.68になっていたと思うのですけれども、この理由を教えてください。

(竹山防災課長) この地区につきましては、計画自体は新発田東部2期ということなのですが、新発田東部という同時期に、ちょっと早めに始まった事業も含めてかなり古い計画の地区でありまして、その頃の事業計画の効果算定の基礎資料を現在価値化して効果算定、現時点価値に戻しております。効果のほうは現在価値化するに従って割と1.4倍とか1.5倍とか見込めてたのですが、費用のほうは実際使ったお金を現在価値化にするということで、最近になってかなり予算が多くつくようになったものですから割と物価スライドが効かないということになりまして、結果的にB/Cのほうが高くなったということでありまして。

(森委員長) よろしいでしょうか。

効果の関係でなのですが、資料2-2-(3)-9のところには水辺環境整備効果とあるのですが、これは対象施設が排水路(護岸工)と橋梁工とあるのですが、この橋梁工とかは今回の施設と何か関係あるのですかね。この水辺環境整備効果のところに出てきてるやつなのなのですが。

(竹山防災課長) すみません。ちょっと今確認できませんので、次回までにお答えしたいと思いますので。

(森委員長) 分かりました。よろしく願いいたします。

あとほかよろしいでしょうか。

それでは、時間のほうも予定の時間をちょっと超過しているようですので、一応資料2に関しましては、今、委員の皆様からの意見、質問等出ましたけれども、中には今回十分な回答ができない部分もありましたので、補足説明が必要な事項等については事務局で取りまとめいただいて、第2回の技術検討会での御提示と説明をお願いしたいと思います。

4. 農業農村整備事業等補助事業の事後評価について

・農業農村整備事業等補助事業の事後評価について

(森委員長) 今、説明いただいた費用の増減率の話なのですが、ここに出ていない計画総事業費がここに書いてあるのは、これはあくまでも、これいつの時点の総事業費になるのですかね、この表の。

(対馬農政調整官) 変更がある場合は、直近の変更計画における事業費というふうに御覧いただければ結構です。

(森委員長) 直近のやつなのですね。だからこの基準に該当するのは計画時なので、それはあくまでも当初計画に対してという意味なのですかね。それでこの、例えば東江地区の73%というのは、もともとの分母がもっと大きかったと、実際工事費は少なく済んだということなのですかね。

(対馬農政調整官) そういうことになります。

(森委員長) それと、この73%というのは増えた額じゃなくて、当初に対して最終的な事業費がどれぐらいの比率かということを表した数字ですよ。

(対馬農政調整官) おっしゃるとおりです。73%まで縮減されたというところですよ。

(森委員長) 73とあるのは、増減率と書いてあるからプラスマイナスした数字のことかと。表の上のほうには平均増減率って何かプラスマイナスと書いてあり、これでいくと15%増えたとか、元に対して15%減ったとかということで、上の真ん中の四角の説明はな

ってますけど、ここの実際の下のほうの具体の地区の場合は増減率で、それで73%減ということではないのですよね。元の73%になったということですよ。

(對馬農政調整官) そうですね。ですから実際にはその27%減少したので、増減率の基準を超えているゆえに選定できるということです。

(森委員長) ここは上のルールにのっとれば27%、マイナス27とか、そういう書き方をするのはないかなと思ったのですけれども、増減率と書いてあると。

(對馬農政調整官) 農林水産本省の様式で整理しているところもありますので、より分かりやすい表現に変えたいと思います。

(森委員長) そうですね。上のルールと実際の下の表の表し方が違ってるのでちょっと混乱してしまうと思うので。何か本省のほうで作られたのがそうなってるのだったら、この辺何か誤解しやすいので、またお伝え願えればと思います。

(對馬農政調整官) 御意見を踏まえまして修正したいと思います。

・農業競争力強化基盤整備事業（水利施設等保全高度化事業）「東江地区」

(松本委員) こちらの事業は、私の理解からすると、2つの目的があって、まずお水を適切な時期に欲しだけあげるよという適時適水みたいな、そこの部分を実現したいというのが一つの目的。もう一つの目的は、上流側と下流側で水の分配に関して不公平があったよ、そこを解決したいのだよという、そういう事業なのかなと思って見ていました。

それに対応するエビデンスとして、例えば資料3-2-(1)-6のように、事業効果の発現状況というところで適時適切な用水管理が可能になったからいろんな作物の単収が上がったよという、こういうエビデンスが提示されていると。ところが一方で、上流と下流域の不公平が解消されたよと。例えばいつも水を取られて全然駄目だった下流域にめちゃくちゃ効果あったよという、その不公平をちゃんと解消できてますよというエビデンスは何か取ることは可能なのですか。

(秋島水利整備課長) そちら、すみません。今時点で手元に資料がないので、確認しまして、次回回答をさせていただきたいと思います。

(松本委員) はい。頑張ってください。ありがとうございます。
以上です。

(森委員長) ありがとうございました。
ほかいかがでしょうか。どうでしょう。

私のほうからなのですけれども、今回、維持管理費の節減のところ。例えば資料3-2-(1)-6にありますけれども、維持管理費が大幅に節減されていると。この額というのはあれなのですかね、「団体ほ場整備地区においては、国営調圧水槽から自然圧のパイプライン掛りになったことから、揚水機場の廃止等に伴い」、これは全部の節減額じゃなくて、国営調圧水槽からのパイプライン掛りになったところの部分的な値ということよろしいでしょうか。

(秋島水利整備課長) こちらも、確認をして、次回回答させていただきます。

(森委員長) はい。よろしく願いいたします。

あとついでに、今度は効果のところ。景観・環境保全効果ということ。盛り込まれてますが、例えば資料3-2-(1)-21ページに内訳が出てますけれども、この施設が景観保全施設とか環境保全施設ということで挙げられているのですけれども、基本的にこの地区は開水路をパイプライン化する事業ですよね。だからあまり景観のことは関係ないかなと思ったのですが、この対象施設というのが2つ、2種類挙げられているのですが、これは何か具体的にどんなものなんでしょうか。

(秋島水利整備課長) こちらの対象施設、支川、用水路ということで書かれておりまして、これが本地区に含まれているかはまた確認して回答をさせていただきますけれども、せせらぎ用水路みたいなものを一部造ったり、九頭竜川の受益で出しておりますので、そういうものを挙げているのではないかと思うのですが、ここは確認して次回回答をさせて

いただきます。

(森委員長) はい、分かりました。この地区じゃなくて関連事業地区かもしれないということですね。ありがとうございます。

あと、同様に地域用水効果というのもあるのですけれども、これもあれですかね、用水路、これはパイプラインにしたけれども、水としては来てるから、これも具体的には何か消雪……、これは防火水槽のことなのですか。ということは、これはこの地区そのものを見ているということでもいいのですかね。水が来ているので、そこからいざとなったらパイプラインから水が取れるからということ。

(秋島水利整備課長) 地区そのものを見ているものと考えられます。

・農業競争力強化基盤整備事業（農地整備事業）「中之島中部地区」

(根岸委員) 2点ほどございまして、1つ目は、まず瑣末なところからなのですが、資料の3-2-(2)-12ページのところで、ここは中之島中部地区の事業の効用に関する説明資料というところで1と2に分かれていて、年総効果額の総括というところの一番下に廃用損失額というものが計上されています。これは投資効率の算定のほうの損失額なので、多分計算上間違っていないと思うのですが、ここの年総効果額のほうの欄にくっつけて書いていいものなのかなというのが単純に疑問だったもので、これ検討していただいたほうがいいのかと思いました。それが一つ。

あとは、こちらの地域も現場の視察をさせていただいてヒアリングでお話を伺ったところで、その関連で1点だけ気になったことがあったので伺いたいのなのですが、ここもほ場整備したときに暗渠排水を整備していただいているということで、ところが使っているうちにだんだんとそうした排水の機能が弱まってくるみたいなことも地域の方がおっしゃっていたように思いました。こうした排水機能の低下みたいなものについて、ここをどういうふうに費用としてというか、あるいは課題としてというか、見込んでいくのかということについて、何かお考えだったりとか、あるいはこの事業評価の中でそういったものが何か算定されているのか、その部分について2点伺います。お願いします。

(高阪農地整備課長) ありがとうございます。

まず1点目の廃用損失額、確かに何か性質の違う数値のように思えますが、それを縦に並べるような形がいいのかどうかという御指摘について、本省で定めている様式もございますので、どのような調整ができるのか検討させていただきます。

2点目、現地調査のときに暗渠排水にしてもらって効果あったのだけれども、だんだん年数とともに効かなくなってくるところがあるというお話がございました。評価においてどのように考慮されているのかというところですが、どれだけその機能が定量的に低下したのかという判断はしておりません。それが間接的に出てくるのがその作物の収量という形に現れていると考えています。その排水機能が最初はしっかりと効いて、排水性が高まってたくさん収量が取れたけれども、年数経過することによって全然効かなくなったということがあれば、またやっぱり単収も下がってくるというようなこともあるかと思えます。単収は、当然それだけではなくて天候であるとか様々なファクターで現れてくるものかと思えますが、その排水性というのもその一つの要因と思えます。そういったものが含まれた形で評価しているということになると思えます。

(根岸委員) はい、分かりました。

結構難しい問題だとは思うのですが、この暗渠排水は修繕とかあるいは維持で定期的に何か、まあ難しいのかもしれないのですが、そういう維持的な、修繕的なものというのは何か想定されているものなのでしょうか。

(高阪農地整備課長) 暗渠排水については、土中にパイプを埋めてるわけですが、その隙間にだんだん泥が詰まって埋まってくるということがあります。メンテナンスとして、一番末端のところから高圧水を噴射して泥を洗い流すであるとか、あと、一旦全部栓を閉めて田んぼに水をためて、管の中に1回水を充填させて栓を一気に開けて、なるべく水の勢いをつけて中の泥を流してやるとか、使う前にはそのような形で中に詰まった泥を少しでも排出してその閉塞を取ってやるといった管理をしながら、なるべく長く使っていただくというようなところであります。

(根岸委員) なるほど。管理上のそういう手続をすることで長く効果も維持できるようになっているという、そういう理解なのですね。分かりました。ありがとうございました。

(森委員長) ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

(松本委員) 事前説明でも伺ったことなのですが、この事業の概要の目的のところでは3つほど従来からの問題点を指摘したように、例えば資料3-2-(2)-1では、まず1点目、区画が10a程度と小さいのが問題だと、2点目の問題は用排水関係が未整備だと、3点目の問題が農道の幅員が狭いという3つの問題を挙げていた。

それに対応して今どうなっているかという、実施後の状況というお写真を見ても、結局10aから大体何aぐらいの区画に大きくなったのだよというのが、具体的な数字が分からない。同じように、農道幅員も狭いというふうな問題というふうに言っているの、当時何mぐらい狭くて、今4m幅員が増えた、どれぐらい増えたとかというエビデンスがない。だけれども、とにかく労働時間が減少しているところを、そのグラフがあるから複合的に効果は発現してるのだらうなとは思っただけけれども、明確に事業概要の目的でここが問題ですと3点挙げられているので、やはり資料の中に具体的に、従来10aぐらいの小区画が現在これぐらいになったとかという具体的な数字を入れながら、その結果、例えば労働時間が5分の1になったのだよとかという説明の仕方のほうが、目的と中身が合ってるねというのがちゃんと分かるのではないかなと思ったのですが、そういうエビデンスって取られてるのですかね。

(高阪農地整備課長) まず区画の大きさにつきましては、標準区画というのがあります。今、手元に数字がありませんが、恐らく1枚が1ha程度には大きくなってると思えます。そうした数字、資料中でも示したいなと思えます。

あと、農道の幅員についても、4m程度になったとは示してますが、それが延長的にどのくらいなのかとか、そういったものもカウントできますので、そちらも併せて示せるように工夫させていただきます。

(松本委員) 頑張ってください。ありがとうございます。

以上です。

(森委員長) 気がついた点なのですが、この地区の総事業費というのはこれに書いてある今最新のデータは3-2-3ページの138億円でいいのでしょうか。3-1の表とか、さっきの参考資料のほうが101億という数字が入っているのですけれども、これ完了事業費、何か当初事業費のやつが入ったままになっているのか。数字の違いですね。

(高阪農地整備課長) 御指摘ございましたとおり、総事業費の値が資料によって異なっておりますので、正しい数字に統一させていただきます。申し訳ございません。

(森委員長) ありがとうございます。

それと、もう一つだけ。この地区の効果に環境関係の効果というのは特段見込んではおられないのですかね。よく大体どの地区も入っているのですけれども、何か環境関係の効果を上げるほどのあれはなかったということで挙げられてないのか。

(高阪農地整備課長) 事後評価ということで、事業計画時点で算定していた効果について今回はじき直すという形でやってまして、当時見てなかったのはなぜかという御質問かと思うのですけれども。

(森委員長) そういうこともあるということですね。

(高阪農地整備課長) そこはなぜなのかというところがちょっと確認できておりません。

(森委員長) はい、分かりました。

・農業競争力強化基盤整備事業（農地整備事業）「広上地区」

(松本委員) 2点いいですか。1つは前に聞いたやつで、例えばリーフレタスなんかは通年の水質のよさを評価して栽培にチャレンジしているということなので、アシツキとか珍しいものもあるということなので、水質の経時的なモニタリングの試みはあるのかどうかということが1点です。

もう1点は、本当に私の勘違いかもしれないのですが、資料3-2-(3)-1の右側の図で米・麦・大豆って穀類はブルーで、赤っぽい野菜は「(えだまめ外)」と書いてあるのですが、富山ブラックのうちエダマメで食べるやつは野菜に分類され、エダマメから取り出した大豆がみそとかになると、大豆が豆になると穀類で分類されるとかいう、私、そういうふうに理解してたので、赤色の「野菜(えだまめ外)」というのは、一体エダマメの何は野菜として、何は大豆として分類しているのかという、そこをちょっと確認させてもらっていいですか。

(高阪農地整備課長) ありがとうございます。

まず、水質のお話ございました。定量的なモニタリング等をしたほうが良いのではないかという御意見頂戴いたしました。まずやってるのかというところなんですけれども、こちら用水の水質に関してのモニタリング等は行われていないようです。

それと、先ほどの資料にあった大豆とエダマメの扱いですけれども、これは「えだまめ外」ということを表記しておりますが、では、エダマメはどこに入っているのかという御指摘をいただきました。グラフの作成時にどのようにカウントしてるのか、またそのカウントの仕方が正しいのか確認して、正しい表現にしたいと思います。修正させてもらいます。

(松本委員) 私の勘違いだったらごめんなさい。よろしくお願いします。

以上です。

(森委員長) ほかいかがでしょうか。

私から。またさっきの地区と同様に、この地区の総事業費の値が、こっちの参考資料の40ページのやつとこっちの本資料のほうの数字が違ってますので、これもまた確認のほうよろしくお願ひいたします。

(高阪農地整備課長) 正しい値に修正させていただきます。